授業者も参加者も創る!!高まる!!広げる!!

西部の社会科の未来へバトンをつなぐ

令和3年7月発行
西部教育事務所

社会科授業づくり講座
四万十市立中村西中学校

西部管内の講座関係ＨＰ

【単　元】地理的分野　C(2)日本の地域的特色と地域区分
【授業者】立石　和仁　主幹教諭

教材研究会　　令和３年５月 26 日（水）
※新型コロナウィルス感染拡大のため、講師との Zoom による校内研修として実施

ポイント①

【多面的・多角的な考察に向かう視点】
SDGs（持続可能な開発目標）の視点を持って学習活動を進めることで、地球規模の課題と関連付けながら日本の地域的特色を多面的・多角的に捉えていくように構想しています。さらに、日本全体と四万十市を比較しながら、SDGsの視点で四万十市の課題を見出し、その解決策を考察、表現していくように配慮しています。

単元を貫く問い（教材研究会時）　誰一人取り残さない、四万十市の未来のために西中から提案しよう

単元計画

課題把握	課題追究		課題解決
〈SDGsの 17 のゴールを知ることで、自分にとっての身近な課題を調べ、理解する。〉 ・SDGsとは何だろうと問いかけ、国連が目標解いている持続可能な開発目標について関心を高める。 ・17 の開発目標の資料をもとに、自分たちにとって身近な課題について読み取ることができるようにする。 ・身近なSDGsの課題から何に着目するのか、どのような資料で調べ、どのように資料を読み取っていくのかを理解する。 ・身近な課題から、単元を貫く問いを設定する。	〈日本における様々な課題を理解する。〉 ・日本における①自然環境②人口③資源・エネルギーと産業④交通・通信の課題を理解する。 ・SDGsの観点から、①～④の課題を身近な四万十市に置き換え、課題解決に向けての見通しを立てる。 ・必要な資料の選択、調べ方や読み取り方など既習した学習を活かす。 ・個人で調べたことをグループで話し合い、条件に沿って情報を関連づけてまとめていく中で、考えを深めていく。	〈グループでプレゼンの準備をする。〉 ・提案したい内容が同じ生徒で2～3人のグループを作り、方向性を決める。 ・1つ簡単な例を作成し、発表を聞くことでイメージを持たせる。 ・根拠となる資料を活用しながら、グループでプレゼンの準備をする。	〈プレゼンをする。〉 ・根拠に基づいて、SDGsの開発目標と四万十市との課題を関連付けて発表する。 ・他のグループの発表内容を自分のグループの内容と対比させて聞く。 ・場所の比較や過去と現在の生活の比較を通して、その変化や共通性、地域により異なる点などを見つける。 ・必ず一人１回は質問や意見を言えるような聞き方をする。 ・疑問に感じたことや、良かったと思った点、こうすればもっといい点などを持ち帰り個人のまとめにつなげる。 ・まとめたことを共有し、単元の振り返りにつなげる。 ・発表内容の再検討をする。
◆付けたい力 ・資料を選択し、読み取り、活用する力	◆付けたい力 ・情報を収集・選択し、比較したり、関連付けたりする力。 ・課題を見つけ、見通しをもって、解決に向けて、多面的多角的にアプローチする力	◆付けたい力 ・根拠をもとにして、表現する力 ・多面的多角的に考える力	◆付けたい力 ・根拠をもとにして、表現する力 ・多面的多角的に考える力

講師の井上昌善先生（愛媛大学准教授）からの助言①

C 日本の様々な地域

	井上先生の授業モデル案
（1）地域調査の手法 →	パート1 身近な SDGs の取組を探そう！
（2）日本の地域的特色と地域区分　（本単元） →	パート2 なぜ、SDGs の取組が重要になっているのか！？ 日本の地域的特色をふまえて考えよう。
（3）日本の諸地域 →	パート3 日本のそれぞれの地域ではどのような SDGs を目指す取組が行われているのだろうか。その取組に共通点や差異はあるか。
（4）地域の在り方 →	パート4 四万十市を SDGs 未来都市として PR するための取組を提案しよう！

ポイント②

【社会科の学習過程を意識した単元構想】
学習指導要領で示された資質・能力を育成していくためには、「課題把握」「課題追究」「課題解決」の学習過程を意識して単元を構想していくことが重要です。学習過程に沿って、生徒が見方・考え方を働かせながら、「動機付けや方向付け」、「情報収集や考察・構想」、「まとめや振り返り」などの活動を進めていくことが資質・能力の育成につながります。

講師の井上昌善先生（愛媛大学准教授）からの助言②

「地域的特色」　（CS 解説 p. 79 より）

- 一般的共通性 →他地域にも共通に見られる性質
- 地域的特殊性 →各地域のもつ独特の性質のこと

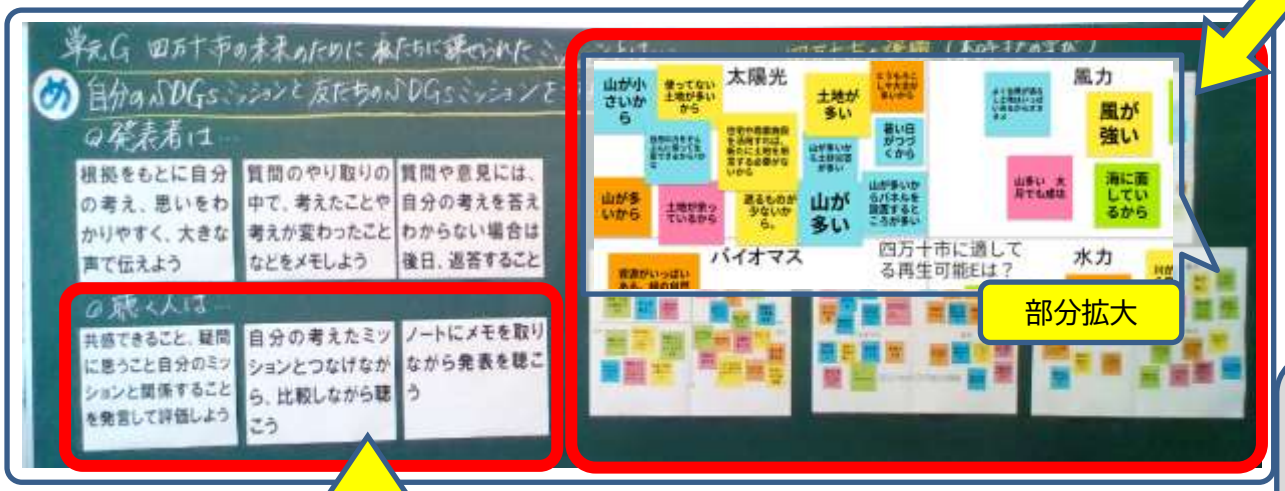
【教材化の視点】
○他地域でも起こっている課題はどのようなものか？
○この地域だからこそ起こっている課題に関することは何か？

助言後の変更点

○本単元では、「四万十市の解決すべき課題（SDGｓミッション）」を提示するまでとする。
→　単元を貫く問いの変更
○四万十市の課題を発見するためのフィールドワークを実施する。

授業研究会　令和3年6月 23 日(水)

単元を貫く問い(変更後)	四万十市の未来のために私たちに課せられたミッションとは…
本時の目標	自分の SDGｓミッションと友だちの SDGｓミッションをつなげ自分事として考察する。



ポイント③

【既習の学びを可視化】

本単元の各学習活動において、Google Jamboard を使って考察・整理したものをプリントアウトして掲示をしています。このことにより、本時までに学んだ「日本の地域的特色」と関連付けたり、比較したりしながら、発表を聴くことができるように配慮しています。

協議の視点

①単元を貫く問いの解決に向かって子どもたちは、社会的な見方・考え方を働かせながら表現できていたか。

②単元構想で改善すべき点はないか。

協議①

◇四万十市の課題を見つけていこうという単元ゴールだったが、他地域との比較が薄かったのではないだろうか。

◇SDGs の視点を絞っていくとよいのではないか。視点間のつながりが生徒の中から出てきたら、より具体的に考えさせる授業になったのではないか。

◇SDGs と地域の課題を関連付けられていた。

◇発表者は、既習事項を使いながら、根拠を示しながら表現できていた。聴いている側からの意見は、ほとんどが肯定的で疑問が出なかった。批判し合うような形になるとよかった。

協議②

◇自分事として考えさせていくことができるので、単元を貫く問いはこのままでよいのではないか。

◇SDGs の視点を絞ることが必要ではないか

◇SDGs 項目間の関連性に気づかせたかった。同じ視点で整理したりする時間を取ってもよかったのではないか。

ポイント④

【他者の考察との比較や関連付け】

他者の発表を聴きながら、自身の考察と比較したり、関連付けたりできるように、事前に意識付けています。

ポイント⑤

【社会的事象の地理的な見方・考え方の明示】

生徒が見方・考え方を働かせている姿として、「位置や分布、地域間の相互依存関係に着目し、比較したり、関連付けたりして、自分なりに考察し表現している。」と設定しています。見方・考え方を意図的に働かせるために、板書等で明示していくことが重要です。見方・考え方を意識しながら考察することによって、より深い理解となっていきます。

参加者の声

単元を貫く課題の重要性と生徒が主体的に、自分事として考える課題を積み重ねることの必然性を確認しました。また、自校で課題設定の再確認と、タブレットの有効活用に取り組みたいと思います。

参加者の声

見方・考え方をいかに働かせることができるのかが、授業を構成していく上で重要だと感じました。自校でもチャレンジしていきたいと思います。